

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2373100722
法人名	有限会社 アートプロジェクト
事業所名	グループホーム 安城福釜の家
訪問調査日	平成 20 年 8 月 20 日
評価確定日	平成 20 年 12 月 25 日
評価機関名	福祉総合研究所株式会社

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 9月8日

【評価実施概要】

事業所番号	2373100722
法人名	有限会社 アートプロジェクト
事業所名	グループホーム 安城福釜の家
所在地	愛知県安城市福釜町里添56-3 (電話) 0566-79-3600

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	愛知県名古屋市中区千種区内山1丁目11番16号		
訪問調査日	平成20年8月20日	評価確定日	平成20年12月25日

【情報提供票より】(年 月 日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 15 年 12 月 19 日				
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人		
職員数	25 人	常勤	10 人, 非常勤	15 人, 常勤換算	人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	3 階建ての	1 階 ~ 3 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,500 円		

(4)利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	26 名	男性	7 名	女性	19 名	
要介護1	14 名	要介護2	8 名			
要介護3	2 名	要介護4	2 名			
要介護5	名	要支援2	名			
年齢	平均	81 歳	最低	72 歳	最高	91 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	わかば内科、黒野歯科
---------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

周辺には田畑が広がり、居ながらにして四季の変化が感じられる長閑な環境である。ホームは3ユニットの構成である。職員は利用者が日常をゆったりと過ごすことが出来るように、出過ぎることなく見守りをしており、サポートが必要となれば寄り添って支援をしている。また、利用者同士は仲がよく、いたわり合う気持ちが見られる。家族からはホーム職員などの雰囲気が高く相談しやすいとの評価であるが、職員は謙虚にまだ残された課題であると認識している。地域との関わりでは、年1回、ホームの夏祭りには地域住民多数の参加があるなど、地域の人々の関心が高まってきている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価での改善の水分摂取では、できるだけ利用者に声をかけ水分を取ってもらうようにして改善している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は管理者が職員に振り分け作成している。しかしその後職員間で検討しておらず今後の課題となっている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月毎に開催している。内容は事業所活動報告やその他意見や要望を聞いている。出された要望や意見は職員会議を開き検討して改善している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の来訪は月2回~3ヶ月に1回となっている。その時に利用者の生活ぶりや身体状況を報告し、他に意見や要望を聞いている。出された要望は職員会議で検討して改善している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	年1回ホームの夏祭りには地域住民多数の参加がある。また散歩時や買い物時等には挨拶している。地域の人には事業所がどんな所なのかは理解してもらっている。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	母体法人の理念はゆっくりと一緒に楽しく「第2の住まい」である。地域密着型サービスになり、事業所独自の理念はまだ検討中である。	○	地域に根ざしたホーム独自の理念を作りあげ職員が一丸になり業務に取り組めるようになる事を望む。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	母体法人の理念はリビングの見やすい所に掲示されている。職員の中でも理念の周知にばらつきがあったが自己評価を職員で取り組む事で理念の周知が出来、理念の共有することができた。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩などで近隣の人とは挨拶をしている。また事業所の夏祭りに地域の住民の参加を呼びかけ、毎年地域住民の多数参加してもらっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員に少しずつ担当してもらい、その後職員間で検討して改善に向け取り組んでいる。職員は評価の意義の理解はできている。		
		○運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議は定期的に開催している。出席者は民生		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2月に開催している。出席者は民生委員、市役所福祉部職員などである。内容は施設の活動状況当施設の浄化槽について等である。いただいた意見や要望は職員会議で検討して改善している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームから市役所福祉課へ相談に出向いている。市役所からの介護相談員を年数回受け入れたり、地域包括センターに介護に関して相談したりしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時にはリーダーが対応して、利用者の生活ぶりや身体状況を報告している。また状態変化や面会の少ない人には電話での対応をしている。金銭管理は家族に領収書を添えて送付してサインをもらい返却してもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は面会時に要望や意見を聞いている。それを月1回の職員会議やリーダー会議で検討して改善に取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	概ね6ヶ月毎にユニット間の異動はしている。新人職員には日中の時間帯から初めてベテラン職員が付き添い対応しており、利用者のダメージは少ない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は法人の研修が年4回あり参加している。他に実務者研修や感染症など外部研修を受講している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員は安城市のグループホーム部会へ参加して地域の同業者との交流はできている。	○	全職員が万遍なく他の施設の研修に参加できるように配慮される事を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ケアマネジャーからの紹介の紹介で入居される方が多い。なので事前に家族が見学され、その後ご本人様と一緒に見学に来ていただいている。入居後は慣れるまで、職員が付き添う様に努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者とのコミュニケーションを大切にし、戦争の話の聞いたり、調理では味付けやうどんのゆで方を聞いたりしている事もある。利用者同士の話の中にもいたわりの言葉が見られる。職員に対しても「お疲れ様」「ありがとうね」と感謝の言葉が見られ、共に生活し良い関係づくりが伺える。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で利用者の声に耳を傾け、一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。おやつ時など飲み物を選べる事もしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者とは日常の行動・言動から気持ちを汲み取りケアについて職員や関係者と話し合い検討し介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に一度見直しを行っている。状態変化が生じた時は随時カンファレンスを行い見直しされている。また年間の介護計画作成の表を作成し見落としのない様に工夫されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の状況に応じて通院介助を行っている。また随時ではないが、買い物希望された方には一緒に外出し買い物に出かけている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医には、月2回往診に来てもらっている。かかりつけ医への受診は家族が対応しているが、対応が難しい場合は職員が対応している。また家族が対応した時は職員が情報を聞き記録に残す様にしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の対応出来ない事を契約時に説明している。本人・家族からも了承を得ている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	家族にはプライバシー保護の話をし同意を貰っている。個人情報の取り扱いには注意している。職員は人生の先輩という尊敬の気持ちを持ち日々努力している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	規則正しい生活をされている。施設の生活の流れはあるが、個々のペースで生活出来る様心がけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニュー・食材の配達をしてもらっているが、メニューは利用者に合わせ調理方法を変えている。調理を手伝ってもらったり、たまねぎの皮むきやもやしひげ取りなどみんなで協力し行っている。利用者と職員は同じテーブルを囲み、楽しい食事ができるような雰囲気作りをしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ユニットによって入浴回数はバラバラである。毎日入浴しているユニットもあれば、1日おきのユニットもあるが週2回以上は入浴していただいている。入浴拒否される方にはタイミングを見て何度か声を掛けし入っただけのよう心がけている。夜間入浴を希望される方も見えるが現在は対応出来ていない。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除・洗濯物たたみ・玄関の掃き掃除・フロアのモップ掛けなど利用者の意思を尊重しながら声掛けを行い生活意欲を高めるように取り組んでいる。畑があり野菜を作り収穫するのも楽しみにしている。月1回外食に出かけたり、喫茶店に出かけたりしている。その時々合った花見にも出かけている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所の神社への散歩や駐車場に出て外気浴を天気の良い日は行っている。気候の良いときには外出企画も行っている。また夏祭りやクリスマス会・敬老会など折り折りの行事も行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	昼間は玄関の鍵は掛けていない。しかし、各フロアの玄関は鍵を掛けている。職員は利用者が外出したい気配を感じたら一緒に出掛けている。	○	ユニット間の施錠については職員間や利用者の協力を得て施錠しないですむ方法を検討されたい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は年2回行っている。今回は消防署の職員の協力を得て避難訓練や消火器の使い方など行っている。5月、11月は設備点検はしている。	○	地域との連携や協力に努めることを望む。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事を摂ったか摂らないかの記録を行い、残量については業務日誌に記録している。水分補給についてはおおまかな把握がされていた。		
v (1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングにはソファとテーブルがあり利用者同士が談話出来る様になっていて、落ち着けるスペースになっている。ユニットによって飾りにも個性が出ている。当日の職員の顔写真を掲示したり利用者の顔写真を飾ったりもしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	全体的にスッキリとしているが、趣味の絵の道具を置いたり写真を飾ったりして家族とも相談してその人が落ち着く空間作りがされている。		